

## CSRの取り組み

# 「CSRのしがぎん」、地球環境・生物多様性を守り、未来へ引き継ぎます。

当行は、「企業も社会の一員である」との認識に立ち、「社会の持続可能な発展」を目指してCSR(企業の社会的責任)の追求に全力を尽くして取り組んでいます。

具体的には、「環境」「福祉」「文化」をCSRの3本柱に「CSR憲章(経営理念)」に掲げる“地域社会との共存共栄”“役職員との共存共栄”“地球環境との共存共栄”の実現に向けて、多面的な活動を展開しています(CSR活動の詳細内容につきましては、別途発行しております「CSRレポート」をご覧ください)。



### 「エコ・ファースト企業」として

琵琶湖をはじめとする地球環境の保全を意識した「環境経営」と、金融商品・サービスの提供など地球環境保全を金融面から促進する「環境金融」の両立を図っております。

琵琶湖畔に本拠を置く企業の社会的使命として取り組んでまいりました環境保全活動が広く認められ、金融業界初の「エコ・ファースト企業」として、環境省から認定(平成20年7月)を受けました。今後とも「エコ・ファースト企業」として地球環境の保全に努めます。

1 ビオトープの周りで生き物や植物の観察(大津市立膳所小学校・平成22年度助成先)

2 「びわ湖環境ビジネスメッセ2011」出展ブースでは、当行の「環境経営」「環境金融」を紹介(平成23年10月19~21日)

3 「外来魚駆除釣りボランティア」に役職員140名が参加(平成24年5月19日、草津市)



## 「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則」に署名

当行は、「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則」の趣旨に賛同し、平成23年12月、署名しました。

同原則は、持続可能な社会づくりに向け、金融機関が取り組むべき行動について定められたもので、「環境や社会に影響を及ぼす可能性が高いと考える事業への融資は慎重な姿勢で臨む」「持続可能な社会を形成する産業の発展や競争力の向上に資する金融商品サービスを提供」など7項目から成ります。

なお、当行は同原則の起草委員会（事務局：環境省）の委員として、本原則の策定に参加しました。

## 節電の取り組み

電力供給不足に対応するため、夏期と冬期に節電を実施、平成24年夏期は7月2日から9月28日まで展開しま

す。取組内容は、①営業室の照明を25%削減②室内温度を夏期28℃に設定③パソコンの輝度を40%に設定、離席時は電源オフ、またはスタンバイ設定などです。

なお、平成23年度は電力使用量を上期9.0%、通期9.6%、それぞれ削減しました（前年比）。

## 東日本大震災ならびにタイ洪水へ義援金を寄付

東日本大震災の復興を願って、営業店窓口に設置の募金箱に、お客さまからお寄せいただきました義援金は累計4,346,476円となり、滋賀県共同募金会へ寄付いたしました。また、当行グループからの2,000万円を平成23年3月22日、当行グループ役職員からの8,897,243円を同4月5日、それぞれ日本赤十字社へ寄付いたしました。

一方、バンコク駐在員事務所の開設を機に平成24年2月9日、タイ洪水の復興を願って200万円をタイ赤十字社へ寄付いたしました。

## 「いきものにぎわい企業活動コンテスト」で「農林水産大臣賞」を受賞！

生物多様性の保全・再生に取り組む企業・事業者を顕彰する「第2回いきものにぎわい企業活動コンテスト」の表彰式は平成23年10月4日、東京都内のホテルで行われ、当行は農林水産大臣賞（一般部門最高賞）を受賞しました。

当行は「CSRのしがぎん」として、琵琶湖を中心とする生物多様性の保全をめざして琵琶湖畔での「ヨシ刈り」や「ニゴロブナ・ワタカ放流事業」などに全行あげて取り組んでまいりました。

表彰式の席上、「滋賀銀行では『未来からの預かりもの』である琵琶湖の湖畔に本拠を置く企業の社会的使命として、琵琶湖から享受している生物多様性がもたらす恵みに感謝し、様々な保全活動に取り組んでいる」と評価をいただきました。



写真左 琵琶湖固有種「ニゴロブナ・ワタカ」を放流し、保護・育成  
 写真右上 「ヨシ刈りボランティア」でヨシ群落を保全  
 写真右下 外来魚のブルーギル・ブラックバスを駆除釣り